

希望

この手に

沖縄の貧困・子どものいま

アルバイトとインターンシップを組み合わせた造語「バイターン」。神奈川県立田奈高は、生徒がバイトで給料をもらいながら職業体験できる仕組み作りに取り組んでいる。バイトが忙しくて職業体験ができない生徒、面接が苦手な生徒など、さまざまな困難を抱える生徒の就労に、ひと筋の光が見え始めている。

横浜市青葉区の商業施設に

島山翼店長(右)から技術指導を受ける佐藤彩香さん=5月25日、横浜市青葉区の実習室「C-STYLE」



神奈川県立田奈高 ⑬

第3部⑬

入居する実習室「C-STYLE」で働く佐藤彩香さん(20)は、神奈川県立田奈高に在学中から同店でバイトし、就職につなげた。高校の図書館で交流相談を行っていたNPO法人パノラマの石井正宏理事長(47)との出会いがきっかけだった。「お客さんと話すことが楽しい。忙しいが充実感がある」と笑顔を見ながら、家族の同意の下、職業体験を

「バイターン」で就労支援

生徒、企業双方に利点

兼ねて、在学中の14年7月から同店でバイトすることになった。美容業は有資格者を採用条件にしているため、資格を持たない高校生がバイトで働くことは異例だ。佐藤さんは「求人誌に美容室のバイトなんて載っていない。こんな機会がなければ、美容師になることはなかった」と、石井氏

美容業界は深刻な人材不足に陥っており、1件当たり数万円の求人広告を出しても、まったく応募がないこともあつた。せつかく採用しても、すぐにやめてしまう人も多い。採用前のバイト期間で店との相性を判断できるバイターンは、経営者側のメリットも大きい。